

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月12日
【四半期会計期間】	第17期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	株式会社マーベラスAQL
【英訳名】	Marvelous AQL Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 許田 周一
【本店の所在の場所】	東京都品川区東品川四丁目12番8号
【電話番号】	03-5769-7447
【事務連絡者氏名】	取締役 山角 信行
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区東品川四丁目12番8号
【電話番号】	03-5769-7447
【事務連絡者氏名】	取締役 山角 信行
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第1四半期 連結累計期間	第17期 第1四半期 連結累計期間	第16期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高 (千円)	3,016,784	4,410,116	17,579,434
経常利益 (千円)	259,946	876,828	2,325,901
四半期(当期)純利益 (千円)	149,750	531,158	1,919,042
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	146,268	532,478	1,915,469
純資産額 (千円)	8,925,464	10,558,955	10,694,665
総資産額 (千円)	13,082,987	14,553,862	15,341,883
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	280.14	993.65	3,590.01
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	68.2	72.6	69.7

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、希薄化効果を有している潜在株式がないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第1四半期におけるエンターテインメント業界は、ソーシャルゲームの市場規模が成長を続けており、成長率自体は鈍化するものの、今後も安定した市場拡大が見込まれております。また、スマートフォンやタブレット向けのゲームアプリ市場も急成長しており、ビジネスモデルやユーザー層の変化・拡大が進んでおります。一方、家庭用ゲーム市場におきましては、依然厳しい市場環境にありますが、新型ハードの登場等で持ち直しが期待されております。音楽・映像分野では、引き続きシングルCD市場の活況やブルーレイ市場の継続成長等が見られました。

このような状況下、当社グループは、多彩なエンターテインメントコンテンツをあらゆる事業領域において様々なデバイス向けに展開する「マルチコンテンツ・マルチコース・マルチデバイス」戦略を基軸とした総合エンターテインメント企業として、強力なIPを中核としたブランディング戦略・アライアンス戦略・グローバル戦略を積極的に推進し、話題性の高いコンテンツの提供とサービスの強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年6月30日）の業績は、売上高4,410百万円（前年同期比46.2%増）、営業利益849百万円（前年同期比205.3%増）、経常利益876百万円（前年同期比237.3%増）、四半期純利益531百万円（前年同期比254.7%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### オンライン事業

当事業のPCブラウザゲームにおきましては、「ブラウザ三国志」、「ブラウザプロ野球NEXT」、「剣と魔法のログレス」等の既存主力タイトルが順調に推移したほか、平成25年6月より、三国志の世界を舞台としたストラテジー・シミュレーションゲーム「ブラウザキングダムライジング」の正式サービスを開始いたしました。また、モバイルゲームにおきましては、「一騎当千パーストファイト」、「閃乱カグラNewWave」が前期から引き続き好調な推移となり、平成25年4月にはiOS向け新感覚コインRPG「コインサーガ」の配信を開始いたしました。

加えて、海外事業展開におきましては、平成25年5月より、人気スポーツエンターテインメント番組「SASUKE」のアメリカ版をモチーフとした「Ninja Warrior Game」を、平成25年6月より、アクションアドベンチャーRPG「Cross Horizon」をAndroid及びiOS向けに、それぞれ北米で配信を開始いたしました。

これらの結果、売上高は1,944百万円（前年同期比24.2%増）、営業利益は181百万円（前年同期比40.7%減）となりました。

#### コンシューマ事業

当事業の自社販売部門におきましては、平成25年5月に発売の「ヴァルハラナイツ3（PS Vita）」が順調な販売を記録したほか、前期発売の「閃乱カグラSHINOVI VERSUS-少女達の証明-（PS Vita）」、「隴村正（PS Vita）」等のリピート受注が大変好調に推移いたしました。また、海外事業につきましても、平成25年4月に米国子会社のMarvelous USA, Inc.にてパブリッシングを行った「Pandora's Tower(Wii)」の販売も順調に推移いたしました。

アミューズメント部門につきましては、キッズアミューズメント筐体の「ポケモンレッタ」が平成24年7月の稼働開始以来、好調を継続中であり、当事業の収益に大きく貢献いたしました。

これらの結果、売上高は1,677百万円（前年同期比154.8%増）、営業利益は739百万円（前年同期は、11百万円）となりました。

#### 音楽映像事業

当事業の音楽映像制作部門におきましては、プリキュアシリーズの新作TVアニメ「ドキドキ！プリキュア」や当社主幹事作品のTVアニメ「やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。」の放送開始及び映像商品化を行いました。

ステージ制作部門におきましては、「ミュージカル『テニスの王子様』」において合計51公演分の実績を計上したほか、新たに関連DVDを2作品発売し、旧作リピートと合わせて受注が堅調に推移いたしました。

これらの結果、売上高は788百万円（前年同期比0.6%減）、営業利益は183百万円（前年同期比10.4%減）となりました。

#### (2) 財政状態の分析

##### （資産の部）

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ788百万円減少し、14,553百万円となりました。主な減少要因は、受取手形及び売掛金の減少によるものです。

##### （負債の部）

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ652百万円減少し、3,994百万円となりました。主な減少要因は、買掛金の減少によるものです。

##### （純資産の部）

当第1四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べて135百万円減少し、10,558百万円となりました。これは、四半期純利益531百万円を計上したものの、前連結会計年度末の配当により利益剰余金が減少したことによるものであります。自己資本比率は72.6%（前連結会計年度は69.7%）となりました。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社が対処すべき課題に重要な変更はありません。

#### (4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、オンライン事業28百万円、コンシューマ事業11百万円、総額は40百万円となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	900,000
計	900,000

(注) 平成25年5月24日開催の取締役会決議において、平成25年10月1日を効力発生日として、普通株式を1株につき100株の割合で分割するとともに、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用する旨、決定しております。

当該株式分割に伴い、平成25年10月1日を効力発生日として発行可能株式総数を90,000,000株とする定款変更についても、平成25年5月24日開催の取締役会および平成25年6月21日付の第16期定時株主総会において決議しております。

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	535,931	535,931	東京証券取引所 (市場第一部)	当社は単元株制度を採用して おりません。
計	535,931	535,931	-	-

(注) 1 提出日現在の発行数には、平成25年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

2 平成25年5月24日開催の取締役会決議において、平成25年10月1日を効力発生日として、普通株式を1株につき100株の割合で分割するとともに、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用する旨、決定しております。

効力発生日までに発行済株式数の変動がなかったと仮定した場合、株式分割後の発行済株式数は、53,593,100株となります。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	535,931	-	1,128,472	-	1,129,991

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、該当事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,380	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 534,551	534,551	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	535,931	-	-
総株主の議決権	-	534,551	-

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社マーベラスAQL	東京都品川区東品川四丁目12番8号	1,380	-	1,380	0.26
計	-	1,380	-	1,380	0.26

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,123,957	7,556,117
受取手形及び売掛金	3,515,610	2,028,473
電子記録債権	28,386	43,991
たな卸資産	957,674	1,246,443
その他	1,013,380	883,651
貸倒引当金	45,541	42,432
流動資産合計	12,593,467	11,716,243
固定資産		
有形固定資産	611,596	567,096
無形固定資産		
のれん	227,096	218,163
その他	1,141,852	1,185,401
無形固定資産合計	1,368,949	1,403,565
投資その他の資産	876,858	981,403
貸倒引当金	108,989	114,446
固定資産合計	2,748,415	2,837,619
資産合計	15,341,883	14,553,862
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	769,468	370,129
短期借入金	602,005	589,290
1年内返済予定の長期借入金	180,503	150,603
未払印税	965,837	852,578
未払法人税等	226,863	355,870
引当金	126,214	-
その他	1,699,746	1,611,961
流動負債合計	4,570,637	3,930,433
固定負債		
長期借入金	64,520	52,408
資産除去債務	12,059	12,066
固定負債合計	76,579	64,474
負債合計	4,647,217	3,994,907
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,128,472	1,128,472
資本剰余金	6,373,514	6,373,514
利益剰余金	3,226,614	3,089,584
自己株式	27,726	27,726
株主資本合計	10,700,875	10,563,845
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11	17
為替換算調整勘定	6,220	4,907
その他の包括利益累計額合計	6,209	4,890
純資産合計	10,694,665	10,558,955
負債純資産合計	15,341,883	14,553,862

(2)【四半期連結損益及び包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	3,016,784	4,410,116
売上原価	1,444,432	1,935,713
売上総利益	1,572,352	2,474,403
販売費及び一般管理費	1,294,170	1,625,221
営業利益	278,182	849,181
営業外収益		
受取利息	1,458	614
為替差益	-	22,671
貸倒引当金戻入額	3,709	4,335
その他	774	2,597
営業外収益合計	5,942	30,218
営業外費用		
支払利息	3,729	2,515
持分法による投資損失	10,464	-
為替差損	9,399	-
その他	584	56
営業外費用合計	24,178	2,572
経常利益	259,946	876,828
特別利益	-	-
特別損失	-	-
税金等調整前四半期純利益	259,946	876,828
法人税等	110,196	345,669
少数株主損益調整前四半期純利益	149,750	531,158
少数株主利益	-	-
四半期純利益	149,750	531,158
少数株主利益	-	-
少数株主損益調整前四半期純利益	149,750	531,158
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5	6
為替換算調整勘定	1,330	2,734
持分法適用会社に対する持分相当額	2,156	1,420
その他の包括利益合計	3,481	1,319
四半期包括利益	146,268	532,478
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	146,268	532,478
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

( 継続企業の前提に関する事項 )

該当事項はありません。

( 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理 )

( 税金費用の計算 )

税金費用については、当第 1 四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

( 追加情報 )

( 株式分割、単元株制度の採用及び定款の一部変更 )

当社は平成25年 5 月24日開催の取締役会において、株式分割、単元株制度の採用及び定款の一部変更について決議いたしました。

1. 株式分割、単元株制度の採用及び定款の一部変更の目的

平成19年11月に全国証券取引所が公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨を踏まえ、証券市場の流動性及び利便性の向上を図るため、当社株式 1 株を100株に分割するとともに単元株制度を採用いたします。

2. 株式分割の概要

( 1 ) 分割の方法

平成25年 9 月30日(月) を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式を、1 株につき100株の割合を持って分割いたします。

( 2 ) 分割により増加する株式数

平成25年 9 月30日(月) 最終の発行済株式総数に99を乗じた株式数とします。平成25年 5 月24日(金) 現在の発行済株式総数を基準に計算すると次のようになります。

株式分割前の発行済株式総数	535,931株
今回の分割により増加する株式数	53,057,169株
株式分割後の発行済株式総数	53,593,100株
株式分割後の発行可能株式総数	90,000,000株

( 注 ) 上記は平成25年 5 月末時点の発行済株式の総数に基づく株式数であり、新株予約権の行使等により、株式分割の基準日までの間に増加する可能性があります。

( 3 ) 資本金の額の変更

本株式分割におきまして、資本金の額の変更はありません。

3. 単元株制度の概要

単元株制度を採用し、単元株式数を100株といたします。

4. 株式分割及び単元株制度の採用の時期

平成25年10月 1 日を効力発生日といたします。

5. 1 株当たり情報に及ぼす影響等

当該株式分割が、前連結会計年度の開始の日に行われたと仮定した場合の前第 1 四半期連結累計期間における 1 株当たり情報及び当連結会計年度の開始の日に行われたと仮定した場合の当第 1 四半期連結累計期間における 1 株当たり情報は、それぞれ以下のとおりであります。

	前第 1 四半期連結累計期間 ( 自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 6 月30日 )	当第 1 四半期連結累計期間 ( 自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 6 月30日 )
1 株当たり純資産額	166.97円	197.53円
1 株当たり四半期純利益金額	2.80円	9.94円

( 注 ) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(四半期連結貸借対照表関係)

(偶発債務)

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入等に対し、重畳的債務引受を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
株式会社アニメーションスタジオ・アートランド	23,198千円	22,268千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	90,997千円	218,119千円
のれんの償却額	387千円	11,610千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

平成24年5月10日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	323,403千円
1株当たり配当額	605円00銭
基準日	平成24年3月31日
効力発生日	平成24年6月8日
配当の原資	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

配当金支払額

平成25年5月10日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	668,188千円
1株当たり配当額	1,250円00銭
基準日	平成25年3月31日
効力発生日	平成25年6月7日
配当の原資	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注)2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,565,575	658,309	792,899	3,016,784	-	3,016,784
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	160	160	160	-
計	1,565,575	658,309	793,059	3,016,944	160	3,016,784
セグメント利益	305,768	11,282	205,303	522,354	244,172	278,182

(注)1 セグメント利益の調整額 244,172千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注)2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,944,755	1,677,335	788,026	4,410,116	-	4,410,116
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	330	330	330	-
計	1,944,755	1,677,335	788,356	4,410,446	330	4,410,116
セグメント利益	181,410	739,327	183,954	1,104,691	255,509	849,181

(注)1 セグメント利益の調整額 255,509千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	280円14銭	993円65銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	149,750	531,158
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	149,750	531,158
普通株式の期中平均株式数(株)	534,551	534,551

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式がないため、記載していません。

2【その他】

平成25年5月10日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....668,188千円

(ロ) 1株当たりの金額.....1,250円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成25年6月7日

(注) 平成25年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月12日

株式会社マーベラスAQL  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 堀 切 進 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 河 合 宏 幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社マーベラスAQLの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社マーベラスAQL及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。